

三豊市文書館のさまざまな連携事業 ～アーカイブズウィークによる中国四国地方の文書館連携及び地域団体との連携～

三豊市文書館 専門員

宮田 克成 みやた・かつなり

はじめに

三豊市文書館にいただいたテーマは「地域文書館×地域文書館」の連携であり、具体的には中国・四国地方の文書館施設が共同で開催している「アーカイブズウィーク」の紹介である。本稿ではいただいたテーマにそってアーカイブズウィークでの文書館同士の連携事業を紹介するとともに、三豊市文書館がおこなっている地域団体との連携もあわせて紹介する。

1. アーカイブズウィークによる文書館同士の連携

「アーカイブズウィーク」では、昭和63年6月1日に「公文書館法」が施行されたことを記念し、中国四国地区の文書館施設が同時にさまざまなイベントを開催しており、2014年で9回目となる。公文書館法の施行を記念しているため、6月1日を含む1週間程度がその会期となるが、その設定は各館にまかされている。その目的は文書館業務に対する理解を広め、アーカイブズの保存・活用を促進することとされている。

実際には、4月頃にアーカイブズウィークで開催するイベントの問い合わせがあり、各館のイベント内容を取りまとめたものが5月頃に送付されてくる。またイベントが終了するとその実績を報告し、11月に開催される中国四国地区文書館等職員連絡会議の席で、それを取りまとめたものが配布される。これら全体のとりまとめは、山口県文書館がおこなってくれている。このようなかたちでアーカイブズウィークは開催されているため、各館が共同で何かを開催するというものではない。

三豊市文書館は2012年よりアーカイブズウィークに参加している。この時期は国際アーカイブズの日(6月9日)もあるため、アーカイブズウィーク・国際アーカイブズの日を合わせたイベントとしている。三豊市文書館では、2012年・2013年に文書館体験講座として「はじめての文書館！」を1日開催している。具体的な内容は①文書館の利用体験・②書庫見学・③文書館の業務体験である。①文書館の利用体験では、参加者の数名に実際に目録から見たい文書を探していただき、閲覧請求をして文書を閲覧していただく。見たい文書を探していただくと言っても難しいので、実際にはご自身がお生まれになった年の、お生まれになった地区の議会議事録を閲覧していただいている。②書庫見学は、どこの文書館でも開催されていると思うが、通常は一般の方々が入庫禁止にしている書庫を見学していただき、文書館にどのような資料があるのかを知ってもらうようにしている。③業務体験では、実際に文書館でおこなっている目録作成作業を経験してもらっている。外から見ていると理解することが難しい文書館の業務



写真1 文書館体験講座「はじめての文書館！」

を知っていただくことを目的としている。

この文書館体験講座「はじめての文書館！」は「国際アーカイブズの日・中国四国地区アーカイブズウィーク」を冠としている。そのため、マスコミの注目を集めることができるようである。実際に新聞等の取材もあるイベントであり、2013年はテレビのニュースでも取り上げられた。これらの記者に話を聞いてみると、「国際アーカイブズの日・中国四国地区アーカイブズウィーク」という冠が目を引きいたようである。普段は取り上げられることが少ない文書館のイベントであるが、このような冠があることにより、マスコミの注目をあびることになった。これもアーカイブズウィークの大きな効果の1つである。

三豊市文書館ではこのようなイベントをアーカイブズウィークにあわせておこなっているが、他の館はもっと多様な事業を展開されている。ただ、三豊市文書館では文書館体験講座を1日のみしか開催できない事情もある。というのは、三豊市では現用文書の書庫スペースの問題もあり、6月中旬を目途にある程度のその年に保存期限が満了となった文書の評価選別作業を終えなければならない。そのため文書館専門員として勤務している筆者も評価選別作業を優先しなければならず、6月上旬のイベントには十分な時間がさけないため、文書館体験講座1日のみしか開催できなかった。

ところが2014年は三豊市文書館でも文書館体験講座に加え、アーカイブズウィーク・国際アーカイブズの日にあわせて企画展を開催している。こ



写真2 文書館体験講座「はじめての文書館！」

れは他館のアーカイブズウィークのイベント内容を知った事務職員から、三豊市文書館でも各館と同じように何か展示をできないかとの声があがったからである。専門職員である筆者に時間的余裕がないなら、事務職員でできる企画を考えて開催するというので、2014年は5～6月に「中国四国地区アーカイブズウィーク・国際アーカイブズの日展」として「広報表紙展vol.1」を開催した。三豊市の広報誌は毎年高い評価を受けている。また広報誌の表紙には月々の代表的なイベントや季節感のある写真が選ばれるため、そこから三豊市の移り変わりが見えるのではないかとということで企画されたものであった。残念ながらこの展示を企画した事務職員は2014年4月1日付で異動となったが、新しく文書館に異動してきて、それを引き継いだ事務職員の手により、無事開催された。

このように、中国四国地区の文書館が同時期にさまざまなイベントをおこなっていることがこの企画展開催の契機となっている。しかも事務職員からこのような企画展開催の声があがったのも、アーカイブズウィークの成果を各館で共有しているからである。アーカイブズウィークの成果を共有し、専門職員のみならず事務職員も、そこから何かを学び、刺激を受けて、新たな企画を生み出す。これもアーカイブズウィークに参加している大きな成果の1つであろう。

先述したとおり、「中国四国地区アーカイブズウィーク」といっても共同で何かを開催している



写真3 中国四国地区アーカイブズウィーク・国際アーカイブズの日展（「広報表紙展vol.1」）

わけではない。ただ同じ時期に各館がそれぞれのイベントを開催し、その成果を共有しているものである。しかし、その効果は宣伝効果もあるが、何より館の新たな企画を生み出す原動力となっている。

2. アーカイブズウィークから地域団体との連携へ

2.1 まちづくり推進隊との連携

2013年の文書館体験講座「はじめての文書館！」の参加者から電話をいただいた。その内容はまちづくり推進隊仁尾がおこなう「仁尾歴史文化資料整理事業」に協力してほしいというものであった。

「まちづくり推進隊」とは、法律に規定されない業務を三豊市から委譲され、交付金のなかで地域のための自由な活動をおこなう団体である。三豊市は2006年に高瀬・山本・三野・豊中・詫間・仁尾・財田の7町が合併して誕生したが、まちづくり推進隊は旧7町それぞれに設置されている。そのなかの1つであるまちづくり推進隊仁尾が、仁尾の歴史・文化に関わる資料を収集し、整理する事業をおこなう予定なので、文書館に協力を依頼してきたのである。まちづくり推進隊仁尾はそれ以前より文書館がおこなってきた古写真を中心とした展示に注目しており、文書館体験講座に参加することで文書館には多くの古写真が存在することを確認して、協力を依頼してきたのである。文書館としても館蔵の資料を利用させていただくのはありがたいことなので、まちづくり推進隊仁尾に協力することとなった。まちづくり推進隊仁尾では、文書館が保存する旧仁尾町に関する古写真の大部分について複製を作成し、まちづくり推進隊仁尾のホームページ上の「わが町アーカイブ」というコーナーで紹介している。また2013年11月2～4日に開催された仁尾町文化祭では、まちづくり推進隊仁尾が文書館の保存する古写真などを利用して「なつかしの校舎展」を開催している。

まちづくり推進隊仁尾のホームページにある「わが町アーカイブ」は文書館が保存する古写真だけを掲載しているわけではない。しかし文書館

にとっては館が保存する資料を利用してもらう以上のメリットがある。現在のところ文書館で独自にホームページを立ち上げることは難しい状況であるし、三豊市のホームページ上の三豊市文書館の紹介コーナーだけではできることにも限界がある。そのようななか、まちづくり推進隊仁尾が文書館にかわって、館が保存する古写真をホームページで発信してくれているのである。文書館単独ではできなかった古写真のデジタル化による公開ということ、資料を提供することでまちづくり推進隊仁尾がおこなってくれているのである。これも地域団体との連携の1つの形であろう。

今年になって「わが街アーカイブ」が新たな展開をみせた。というのも、「わが街アーカイブ」で見た古写真を雑誌に掲載したいという連絡があったのである。最初はまちづくり推進隊仁尾に問い合わせたそうだが、文書館が保存する古写真であるため文書館にも聞いてほしいという回答があったので、文書館にも連絡があったのである。もちろん文書館の保存する写真であったので、文書館でも掲載を承諾している。このように「わが街アーカイブ」をとおして、文書館の古写真が広く利用されていくことも、両者の連携の大きな効果であろう。

また「なつかしの校舎展」も市民に文書館の館蔵資料を知っていただく良い機会になっている。実際に、文書館という敷居が高く感じられ足が向かないという市民も多い。また仁尾は文書館が所在する山本からは遠く、実際に来館が困難な市民も多い。そのようななか、まちづくり推進隊仁尾が「なつかしの校舎展」を開催してくれたことで、普段は文書館に来ることができないような市民にも文書館の資料を知っていただくことができた。文書館では敷居が高く感じられた市民も、毎年開催されている地域の文化祭だと、気軽に立ち寄ることができる。文書館も出張展示などを企画しないわけではないが、展示場所の確保や展示の維持などを考えると困難なことも多い。それをまちづくり推進隊仁尾の自主的な事業でおこなってくれているのである。文書館から依頼したことで

はないが、地域団体ならではの小回りで、このような展示が開催されることは、文書館にしても有効な資料の活用方法であり、効果も大きいと考えている。



写真4 まちづくり推進隊仁尾主催 三豊市文書館協力「なつかしの校舎展」

しかも、このような事例はまちづくり推進隊仁尾に限ったことではない。まちづくり推進隊詫間からは、2013年10月5日～11月4日に開催される「瀬戸内国際芸術祭 秋会期」で三豊市詫間町の粟島が会場となるので、そこで粟島に関する展示を開催したいという依頼があり、まちづくり推進隊詫間と三豊市文書館の共同展示というかたちで、「三豊思い出写真帳 別巻 詫間粟島編」という小さな展示を開催している。また三豊市文化財保護協会財田支部からは2013年10月26～27日の「たからだ文化祭」(旧財田町の文化祭)において大正天皇即位大嘗祭に関する資料の展示をおこないたいという依頼があり、文書館が資料提供をおこなった。大正天皇即位大嘗祭の際に香川県が主基地方に選ばれており、旧財田町(当時は財田村)もさまざまな役割を担ってきた。財田にはこれに関する史跡も残されているが、そのことも忘れられつつある。そのため三豊市文化財保護協会財田支部が企画したもので、文書館が提供した資料に地元などに残されていた資料を加えて「大正天皇即位大嘗祭関係資料展示」と題して展示がおこなわれた。2015年が主基地方100年にあたるため、三豊市文化財保護協会財田支部では、今後もさまざまな

普及活動をおこなっていくようである。さらに2014年にはまちづくり推進隊山本より、10月18～19日の「やまもと爽郷まつり」の際に、まちづくり推進隊山本の活動報告とともに、山本町の古写真を展示したいとの依頼があった。文書館としてはこれにも協力していく予定である。



写真5 まちづくり推進隊詫間・三豊市文書館共同展示「三豊思い出写真帳 別巻 詫間粟島編」



写真6 三豊市文化財保護協会財田支部主催 三豊市文書館協力「大正天皇即位大嘗祭関係資料展示」

2.2 三豊ケーブルテレビとの連携

これまで紹介したような地域団体ではないが、民の力で文書館の資料を紹介してもらっている例をもう1つ紹介する。2014年5月より三豊ケーブルテレビ放送で放映されている「三豊時変」という番組である。三豊ケーブルテレビ放送は三豊市・観音寺市(旧三豊郡)を放送エリアとしたケー

ブルテレビの放送局である。そのため中国四国地区アーカイブズウィークに開催している文書館体験講座や企画展も取材に来てもらっている。このような取材を重ねることで、三豊ケーブルテレビ放送も文書館にどのような資料があるのかを把握しており、2014年になって文書館に番組作成の協力依頼があった。番組の内容は三豊市文書館が保存する古写真を利用して、現在の様子と比較するという10分番組である。5月は高瀬町、6月は仁尾町、7月は山本町、8月は三野町の古写真と現在の風景が放送され、9月は詫間町が放送される。本稿執筆段階では10月放送予定の財田町分を準備しているところである。文書館としても文書館が保存する資料を広く知ってもらう機会になると考え、古写真の選定、提供、解説文の作成などで協力している。実際に番組としてどれほどの効果があるのかは、今のところわからない。しかし三豊ケーブルテレビ放送のご理解もあり、放送を終了したのについては文書館にDVDを提供していただき、来館者は視聴できるようにしている。文書館にとっては、これも1つの大きな効果である。先述したまちづくり推進隊仁尾による文書館の保存する古写真のデータ化およびインターネットでの公開同様、映像の作成も予算的な問題などもあり文書館単独ではできなかったことである。そのようなことも三豊ケーブルテレビ放送との連携により実現できたのである。

おわりに

このように中国四国地区アーカイブズウィークの文書館体験講座や企画展をはじめとした文書館の普及活動のなかで、文書館にはどのような資料が存在するのかを知っていただくことができた。文書館が積極的に働きかけたわけではないが、このような普及活動をとおして、今度は地域団体等が文書館の資料を利用してさまざまな活動をおこない、さらに多くの方々に文書館の所蔵資料を知っていただけるようになっていく。これからも地域団体との連携をすすめ、文書館以外の施設での展示の開催、資料のデータ化・インターネットでの公開、文書館が保存する資料を利用した映像作成など、文書館だけではできないような事業も実現していきたい。このような地域団体との連携も、これからの連携の1つのあり方と考える。

またこのような地域連携の基盤となっているのが、言うまでもなく中国四国地区アーカイブズウィークの文書館体験講座や企画展などの普及活動である。これを充実していくことが、さらなる地域との連携につながるものと考えている。とくに中国四国地区アーカイブズウィークは館の新たな企画を生み出す原動力となるものでもあるが、今後は文書館同士の連携を利用して、さらに多くの方々に文書館とその保存する資料を知っていただく機会とできるよう、工夫を重ねていきたいと考えている。